



## 第67回

### 伏見城と地震とナマズ

※2021年12月の毎日新聞記事を元にした文章です。

校閲し、直すべきところを指摘してください。

1 / 2

茨木県・鹿島神宮には、地震を  
起こす大ナマズを「要石かなめいし」の靈力  
で抑え込むという伝承がある。江  
戸時代末期、1855（安政2）  
年に起きた安政大地震の際は「鯰なます  
絵」という浮世絵が市中に出回っ  
た。江戸っ子は「地震とナマズ」  
をしっかりと結びつけていた。

天下人、豊臣秀吉も地震はナマ  
ズが起こすと考えていたようだ。  
大阪の伏見城ふしみの築城中、1593  
（文禄2）年に重臣に送った書状  
には「ふしみのふしん（普請）な  
まつ（ナマズ）大事にて候」と  
震災対策について念を押すくだり  
がある。

その伏見城の遺構から、石垣の  
基礎部分が初めて確認された。地  
面に掘った溝に大きな根石を並べ、

そのうえに石垣を築く地震対策が  
書状通りに施されていたという。

伏見城を巡っては築城の数年前  
に「天文地震」と呼ばれる大地震  
があった。鯰絵に詳しい研究家、  
細田博子さんはナマズが地震を起  
こすイメージはこのころの近畿地  
方で確立し、やがて江戸に浸透し  
ていったと考証している（「鯰絵  
で民俗学」思文閣出版）。

東日本大震災から10年を経た今  
年、首都圏では10月に最大震度5  
の揺れがあった。多くの帰宅困難  
者が出るなど、都市の脆弱ぜいじやくさを改  
めて痛感させた。3日に山梨、和  
歌山を中心に相次いだ地震に不安  
を覚えた人も多かろう。

ちなみに秀吉が手を尽くさせた  
はずの伏見城は地震であえなく倒

壊し、再建を余儀なくされた。コロナ禍のさなかでも備えを怠らずに、社会の「要石」の霊力が衰えぬようにしたい、節目の年の歳末である。